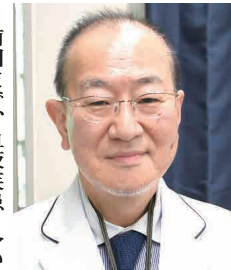


医療最前線

街の血液内科

血液疾患とその対応③



時々の無呼吸がその原因となつていることもあります。頭痛感、肩こりなどを訴えられることも

前回まで、血液疾患でみられる症状や種類、特に貧血について詳しくお話させていただきました。

今回は、最近の健康診断でも重視され、血液内科に多く紹介されるようになってきた疾患についてお話させていただきます。

赤血球や血小板が多いと言われたら

赤血球が少ない、あるいは血小板が少ない場合は、貧血や出血症状などが想定されます。

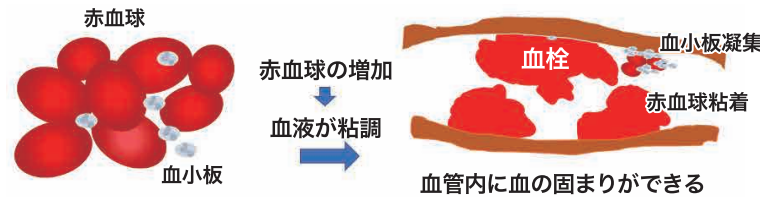
赤血球が多い(多血症)場合、いわゆる「赤ら顔」が症状の一つであり、「昼間から酒を飲んでいるのか?と言われる」と悩んでおられた方もいらっしゃるかもしれません。

骨髄増殖性腫瘍について

赤血球増多症や血小板増多症は骨髄増殖性腫瘍と言われ、造血細胞が増える際に働いているJAK2遺伝子に変異をきたして発症します。

その原因となつていることもあります。頭痛感、肩こりなどを訴えられることも

【図】多血症と血栓症



多血症と血栓症

循環障害による症状



めまい、耳鳴

多血による症状



頭痛、赤ら顔

血栓症状



胸痛、頭痛、構語障害

心筋梗塞、脳梗塞、静脈血栓症

血小板増多症は骨髄増殖性腫瘍と言われ、造血細胞が増える際に働いているJAK2遺伝子に変異をきたして発症します。これらは直ちに悪性になるものではありませんし、多くの場合、急激な変化をきたしません。血小板増多症は骨髄増殖性腫瘍と言われ、造血細胞が増える際に働いているJAK2遺伝子に変異をきたして発症します。

日常生活での注意点としては、①寝る前にコップ一杯の水を飲む、②脱水にならないよう日頃から注意する、③たばこは血管を収縮させて血栓症の危険を高めるので禁煙する、などがあげられます。

これまで3回に渡り

〈梶川病院(広島市西区天満町) 医師 岩戸康治